



会長挨拶

「国際理解教育」のねらいと外国語活動

オホーツク国際理解教育研究会

会長 吉田 寛（訓子府町立訓子府小学校長）



本研究会では、ここ数年、外国語活動に焦点を当てながら、新学習指導要領に示された外国語活動のスムーズな導入と、国際理解教育の立場からの外国語活動の在り方について、模索して参りました。研究部を中心に、公開研究会とFLA-P（外国語活動プロジェクト）の活動を中心に、成果をあげてきました。

「外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う」これは、外国語活動の目標です。

この中で、国際理解教育に直接関連してくるのは、「言語や文化について体験的に理解を深め」という部分です。

国際理解教育は、ご承知の通り、外国語活動のみではなく、全ての教育活動を通して行われるものです。「いつでも、どこでも、だれにでも」というキャッチフレーズの下、進められてきている教育活動です。その大きな目標というのは、「地球市民」の育成ということです。「異文化理解」から「多文化理解」へ、共生の理念の共有、そして「行動化」ということが入ってきました。自分たちが住んでいる地域や生活から、グローバルな地球的視野で物事を考え、「共に生き」「共に行動する」児童の育成が求められているのです。そのために、「自己の確立」や「我が国の文化や伝統の理解」「コミュニケーション能力の育成」「異文化や多文化を理解し、受け入れる心」「平和を願う豊かな心の育成」などが、重要な要素となります。外国語活動における「言語や文化について体験的に理解を深め」という部分を慎重に扱い、国際理解教育の理念に迫ることが大切です。

今年は、開発教育の側面も強化され、FLA-Pの活動と共に、本研究会の幅の広がりを感じます。教師自身が、世界や地球に目を広げ、地球市民としての児童の育成のために、頑張っていきましょう。

平成23年度 オホーツク管内国際理解研究会 役員

会 長	吉田 寛 (訓子府小学校校長)	
副会長	光成 英二 (端野小学校校長)	石田 篤司 (網走東小学校校長)
	藤田 俊一 (白鳥小学校校長)	
監 事	国兼 秀也 (小泉小学校校長)	高柳 修 (留辺蘂小学校校長)
	西村 榮樹 (斜里中学校校長)	
事務局長	菅原 敏明 (北見南小学校教頭)	
事務局次長	櫻田 弘道 (三輪小学校教頭)	佐藤 文昭 (西興部小学校教頭)
	河原 賢 (滝上小学校教頭)	小野寺 哲浩 (端野中学校教頭)
研究部長	相馬 一之 (美幌小学校教諭)	
組織部長	大石 剛 (紋別小学校教頭)	
情報部長	長崎 祐紀 (相内小学校教諭)	

よろしくお願いたします。

海外教育事情研集会

去る5月7日(土)、小泉小学校を会場にして、平成23年度の海外教育事情研修会が開かれました。今年の帰国報告はパキスタンのイスラマバード日本人学校から帰国された畠山稔先生(北見北中)、台湾の台北日本人学校から帰国された立花武人先生(斜里中)の二人でした。

畠山先生のパキスタンでの生活では、かのビンラディン氏の潜伏先より50kmしか離れていない!!とところにお住まいだったことや治安の話、避難訓練が年五回も行われることなど、大変な生活ぶりをお話いただきました。アジアの辺りでは、授業料が一番?安いそうです。



↑テロ頻発 畠山先生

一方、立花先生には、チャイナ服を着て お話いただきました。台湾は親日的であるということ、特に北海道に対してはいい印象があったということなどお話いただきました。

お二人の話聞き、所変われば生活も違うなあと感じました。

その後、JICAにて派遣されていた佐藤文昭先生(西興部小)によるタンザニアの報告、相馬一之先生(美幌小)と有路直人先生(常呂小)によるセネガルの帰国報告もしていただきました。参加したみなさんは、アジアとアフリカの文化・風習など生活の違いや、日本人学校と青年海外協力隊の派遣の内容の違いなどに耳を傾け、理解を深めていました。

←ゴキブリに感動? 立花先生



海外への道

～海外日本人学校へその① 局面接編～

国際理解教育研究会に参加した動機は様々でしょう。ですが、少なからず海外の日本人学校に興味を持って参加している人もいます。当然、海外で暮らす子どもたちのためではありますが、同時に長い教職生活、いろいろな場所での経験はきっとあなた自身を魅力的に成長させてくれるはずです。ここでは、海外日本人学校に赴任するための過程について、わかる範囲でお知らせします。もし興味があったら、ぜひチャレンジを。

まずはオホーツク管内の試験にパスする必要があります。願書が届き、提出までの時間はほとんどありません。事前に管理職の先生に受験希望を伝え、すぐに行動に移せるように準備しておきましょう。何はともあれオホーツク教育局の面接です。今年の面接は5月13日（金）に行われました。採用枠は決まっておらず、3人の時もあれば1人だけの時もあります（年度によって増減するんですね）。試験の内容は面接のみです。ですが、面接の受け答えは何度も熟慮して練習する必要があります。どんな内容かは、派遣の経験のある方に聞くのが一番。きっと力になってくれるでしょう。当国際理解教育研究会では、毎年局面接の前に「面接学習会」を行います。面接を受ける方は、この会に参加し、学習するとよいでしょう。模擬面接などもあり、すごく緊張しますが、的確なアドバイスがもらえ、本番に向けてのいい練習になります。

受験資格にはないと思いますが、北海道では小学校と中学校の両方の免許が必要なようです。私も中学校の免許がなかったので、通教です。今は教育実習も必要ないので、通教で大丈夫。玉川、仏教、創価、明星などの大学があります。

準備が整ったら、本番です。控え室には面接順番の前の人と後の人としか出会わないと思います。不安で何人が受験しているかもよくわからないままですが、自信を持って臨んでください。結果は思ったよりすぐに届きます。もし、合格していたら、今度は北海道面接があなたを待っています。こうして世界へ一歩近づきます。

次号に続く

*** ただいま派遣中です ***

西興部中 倉田忠彦先生 パラグアイへ 美幌北中 増田英志先生 タイへ
斜里朝日小 岩崎直希先生 シンガポールへ 東藻琴中 岩本謙一郎校長先生 インドネシアへ
現在派遣中です。 (退職された石橋壽春さんはベトナムにシニア派遣中です)

編集後記

東北で被災された方には、お見舞い申し上げます。教育の現場でも、まだ通常に戻ることもできないまま、日々の授業を行っているようです。常日頃、普通に教室で授業ができることの幸せを忘れないようにしたいもの。被災地の一日も早い復興を願います。では、今年度もオホーツク国際理解教育研究会を、よろしく願いいたします。もし、お時間があれば本研究会のホームページもご覧ください。

<http://abakoku.jp/>

文責 情報部部長 北見相内小 長崎 祐紀

(おねがい) 会費の納入はお済みでしょうか？3,000円です。

お問い合わせは・・・ 端野中学校小野寺哲浩教頭先生 (TEL 0157-56-2023) へ。